流行性耳下腺炎
（おたふくかぜ）

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）は子どもたちの間で流行しやすい感染症。

１週間ほどで治りますが、髄膜炎や難聴といった合併症がけっして少なくありません。とくに難聴になると、一生聴力を失うことになってしまいます。

お子さんをおたふくとその合併症から守るために、ぜひワクチンを受けて下さい。

世界の
子どもに
ワクチンを

日本委員会

塚田こども医院

一口メモ

おたふくかぜ難聴

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）ウイルスは神経に入り込みやすい性質をもっています。そのために髄膜炎をおこしやすいことが以前から指摘されています。

さらに、内耳の神経をおかすことで難聴になることも大きな問題です。その多くは片側だけですが、治療法がなく、永久に聴力を失うといわれています。その頻度も数百人の患者に１人程度ととても多く、日本では年間数千人のおたふく難聴が発生しています。

おたふくワクチンを接種しておくと、おたふくにかからなくなりますし、結果として難聴になる心配もありません。

日本でも欧米のように、一日も早くすべての子どもたちにワクチン接種をおこなってほしいと願っています。

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）

おたふくかぜとは

耳の下（耳下腺）が腫れて痛がります．たいてい左右とも腫れますが，片側だけのこともあります．腫れは約1週間でひきます．熱は3〜4日でおちつきます．

治療

熱や痛みをおさえる薬を処方します．痛いときは冷湿布もよいでしょう．

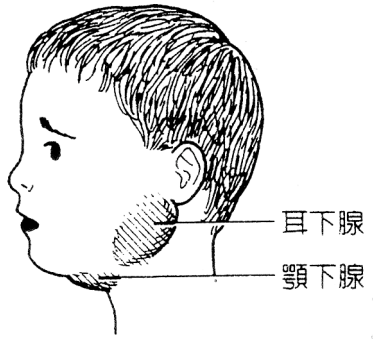
家庭で気をつけること

① 食べ物　：すっぱいものや，よくかまなくてはいけない食べ物は避けましょう．よけいに痛くなります．痛みが強いときは，かまずに飲みこめるものを与えます．牛乳やみそ汁，ポタージュスープ，プリン，ゼリー，おかゆ，とうふ，グラタンなどがよいでしょう．

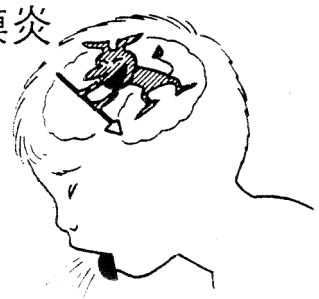
② 入浴　：高い熱のあるときや痛みが強いとき以外は，かまいません．

保育所・学校

腫れがひくまでは他の子にうつります．約1週間は休ませましょう．



髄膜炎



潜伏期は、２〜３週間（平均16日）

おたふくかぜの予防注射

おたふくかぜは保育園・幼稚園でもらうことが多いので、集団生活に入る前にワクチンを受けて予防しておかれるといいでしょう。市町村でおこなう予防接種ではなく、希望される方だけ受ける「任意接種」です（有料）。

接種を受けた子どもの2,000人に１人ほどに、髄膜炎様の症状が副作用としてでることがありますが、軽いもので、後遺症を残すことはありません。

こんなときはもう一度診察を

① 頭痛が強く，何度も吐くとき．
② 1週間たっても腫れがひかないとき．
③ 熱が5日以上続くとき．
④ 耳の下の腫れが赤くなったとき．
⑤ 睾丸を痛がるとき．